慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中山幹夫教授 略歴・著作目録
Sub Title	Biographical sketch and writings of Professor Mikio Nakayama
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2013
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics=Mita journal of economics). Vol.105, No.4 (2013. 1) ,p.787(265)- 795(273)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20130101-0265

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中山　幹夫教授　略歴・著作目録

＊ 2013年3月31日をもって慶應義塾大学
経済学部を定年退職するのにともない，
本学会を退会する会員の略歴・著作目録
を次頁以下に掲載します。

本誌編集委員会

中山　幹夫教授　略歴・著作目録

1．略　　歴

1947年12月　富山県に生まれる。

1970年３月　東京工業大学工学部卒業

1972年３月　同大学大学院理工学研究科社会工学専攻修士課程修了，工学修士

1972年４月　東京工業大学工学部社会工学科計画数理講座助手

1975年４月　富山大学経済学部講師

1978年10月　同学部助教授

1983年６月　東京工業大学から理学博士の学位取得

1987年９月　米国ノースウエスタン大学ケロッグ経営経済研究所訪問研究員（88年 7月まで）

1988年10月　富山大学経済学部教授

1989年４月　法政大学経済学部教授

1996年10月　日本経済学会理事（98年 9月まで）

1997年４月　慶應義塾大学経済学部教授

2002年　　日本経済学会『現代経済学の潮流』編集委員（2003年まで）

2008年　　慶應義塾経済学会会長

2．著作

学術論文

学位論文

Cooperative and Noncooperative Games in Public Economic Systems, 東京工業大学，1983年。

専門誌（**refereed papers**）

1. A Note on the Core of an Income Redistribution Game, *Journal of Economic Theory*, vol.12, no.2, pp.347–349, April 1976.
（概要）．負の所得税による所得再分配を１点コアとして実現する協力ゲームを与えた。
2. The Cost Assignment of the Cooperative Water Resource Development: A Game Theoretical

Approach, (joint with M. Suzuki), *Management Science*, vol.22, no.10, pp.1081–1086, June 1976.
（概要）．水資源共同開発事業の費用分担を，「仁」と訳した協力ゲームの解である nucleolus で決定するモデルを定義し，神奈川県におけるケーススタディを行なった。ここで与えた仁の公式は，現在，ENSC（Egalitarian Non-Separable Cost）と呼ばれ，費用分担問題の代表的な解の 1 つとなっている。

3. Proportional Income Taxes and Cores in a Public Goods Economy, *Journal of Economic Theory*, vol.15, no.2, pp.295–300, August 1977.
（概要）．公共財を含む経済において，税率を内生的に与えるルールのもとでコアは比例所得税によるパレート最適な資源配分と一致することを示した。

4. An Existence Proof of a Pareto Optimal Allocation under a Proportional Income Tax in a Public Goods Economy, *Economic Studies Quarterly*, vol.29, no.1, pp.84–87, April 1978.
（概要）．パレート・フロンティアを準凹効用関数で特徴付ける Rawls 型社会的厚生関数を定義し，角谷の不動点定理を用いて比例所得税のもとでのパレート最適資源配分の存在を証明した。

5. Proportional Income Taxation and Nash Equilibria in a Public Goods Economy, *Economic Studies Quarterly*, vol.30, no.3, pp.252–259, December 1979.

6. Nash Equilibria and Pareto Optimal Income Redistribution, *Econometrica*, vol.48, no.5, pp.1257–1263, July 1980.
（概要）．純粋に私的な動機にもとづく個人間の所得の移転によってパレート最適な分配が達成されることを主張する Hochman and Rodgers のパレート最適再分配の理論を非協力ゲームによって検討した。

7. Optimal Provision of Public Goods through Nash Equilibria, *Journal of Economic Theory*, vol.23, no.3, pp.334–347, December 1980.
（概要）．公共財経済において，ナッシュ均衡によってリンダール均衡を実現するメカニズムを与えた。今日，メカニズム・デザインと呼ばれている研究領域の嚆矢となった Hurwicz や Walker の論文に並ぶと言える研究である（が，あまり引用されないのは残念である）。

8. Note on the Core and Compensation in Collective Choice, *Mathematical Social Sciences*, vol.2, pp.323–327, April 1982.
（概要）．単調性をみたす Simple Game のコアにおいて，賄賂を得ているプレイヤーがいるならばそれは拒否権者であることを示した。

9. A Note on a Generalization of Nucleolus to a Game without Sidepayments, *International Journal of Game Theory*, vol.12, issue 2, pp.115–122, 1983.
（概要）．仁（nucleolus）を，利得の移転を許さないゲーム（NTU ゲーム）に拡張し，存在とコアに含まれるという性質を証明した。

10. Truthful Revelation of Preferences for a Public Good, *Mathematical Social Sciences*, vol.5, pp.47–54, 1983.

（概要）．各主体が公共財に対する真の需要（true demand）を表明することが慎重な自発的行動となってリンダール均衡を達成するメカニズムを与えた。

11. The Nash Bargaining Solution as Mutual Expected-Utility Maximization, *Journal of the Operations Research Society of Japan*, vol.31, no.3, pp.322–334, September 1988.

12. On Big Boss Games, (joint with S. Muto, J. Potters and S. Tijs), *Economic Studies Quarterly*, vol.39, no.4, pp.303–321, December 1988.

13. Stable Payoffs in Resale-Proof Trades of Information, (joint with L. Quintas), *Games and Economic Behavior*, vol.3, pp.339–349, 1991.

（概要）．情報（財）は Arrow によれば普通の市場取引は困難であるが，寡占産業における革新的技術情報などのように，拡散するにつれて保有者にとっての価値が低下する場合は，自発的に転売を控える Resale-Proof Trade と名付けた情報の取引を定義することができる。本論文では 14 のモデルの対称性の仮定をはずし，より一般的な枠組で取引が可能であることを示した。

14. Resale-Proof Trades of Information, (joint with L. Quintas and S. Muto), *Economic Studies Quarterly*, vol.42, no.4, pp.292–302, 1991.

15. A Cooperative Game of Information Trading: The Core, Kernel and the Nucleolus, (joint with T. Driessen and S. Muto), *Methods and Models of Operations Research*, vol.36, pp.55–72, 1992.

16. Stable Outcomes in Sequential Information Trading: An Application of the Bargaining Set, (joint with S. Muto), in: B. Dutta, D. Mookherjee and T. Parthasarathy, eds., *Game Theory and Economic Applications*, Springer 1992.

17. The Resale-Proof Trade of Information as a Stable Standard of Behavior: An Application of the Theory of Social Situations, (joint with S. Muto), *Essays in Game Theory: In Honor of Michael Maschler*, ed. by N. Megiddo, Springer-Verlag, 1994.

（概要）．Resale-Proof Trade を，社会状況の理論によってゲームの解として埋め込んだもの。

18. Self-Binding Coalitions, *Keio Economic Studies*, vol.35, no.1, pp.1–8, 1998.

（概要）．提携行動が自己拘束的となるための条件の定式化を試みた。

19. Strategic Cores in a Public Goods Economy, (joint with Y. Utsumi), *International Game Theory Review*, vol.6, no.4, pp.509–524, December 2004.

20. Coalition-Proof Nash Equilibria and Cores in a Strategic Pure Exchange Game of Bads, (joint with T. Hirai and T. Masuzawa), *Mathematical Social Sciences*, vol.51, 2006.

（概要）．バッズを互いに投げ合うゴミゲームを提携戦略形に定式化し，結託耐性ナッシュ均衡は各自が自分のバッズを順繰りに隣のプレイヤーの庭に投げ捨てるという行動だけを記述するが，コアは各自が自分のバッズを自分の責任で処理するという行動をも記述しうることを示した。

21. The Dawn of Modern Theory of Games, *Advances in Mathematical Economics*, vol.9, 2006.

（概要）．エミール・ボレルからジョン・F・ナッシュに至るゲーム理論の展開について学説史的に述べたもの。

22. Anti-Dual of Economic Coalitional TU Games, (joint with T. Oishi), *Japanese Economic Review*, vol.60, no.4, pp.560–566, December 2009.

（概要）．反双対性と名付けたゲームの変換を定義して，従来，無関係に分析されていたいくつかのゲームが互いにこの変換で結ばれていることを指摘し，さらに，反双対の関係にあるゲームの間では，コア，仁およびシャープレイ値が符号を逆にするだけという単純な変換で得られることを示した。

23. The Strategic Cores α, β, γ and δ, (joint with T. Harada), *International Game Theory Review*, vol.13, no.1, pp.45–59, 2011.

（概要）．提携戦略形ゲームにおいて，古典的な α および β コアと，提携と提携外の各メンバーがナッシュ均衡をプレイする γ コア，および提携がシュタッケルベルグ・リーダーとなる δ コアと名付けたコアが，支配戦略均衡が存在する場合には，α，β，γ，δ の順に精緻化されることを示した。また，純粋交換ゲームではすべてのコアは一致するが，コモンズ・ゲームでは δ コアが 1 点のみからなるという結果を証明した。

ディスカッションペーパー

1. The Core of a Game with a Public Good, (joint with M. Kaneko), *mimeo*, Tokyo Institute of Technology, 1974.
2. Coalition-Proofness, Retaliations and Punisnment Dominance in a Class of Strategic Games, (joint with T. Hirai and T. Masuzawa), *KESDP No.03–3*, 2003.
3. Mutual Cooperation and Unilateral Altruism in a One-Shot Prisoner's Dilemma: A Computability Approach, *KUMQRP DP2005–003*, 2005.
4. A Note on the α- and β- Cores in TU Coalitional Strategic Games, (joint with C. Yu), *Keio/Kyoto Joint Global COE Discussion Paper Series DP2011–002*, 2011.

三田学会雑誌

1. ゲームと戦略の計算可能性について，三田学会雑誌 91 巻 4 号，1999年。
2. ナッシュ均衡のランダム性についての覚書，三田学会雑誌 93 巻 1 号，2000年。
3. 第 2 帰納定理の応用とその周辺，三田学会雑誌 98 巻 3 号，2005年。
4. 離反と報復——純粋交換の提携戦略的分析，三田学会雑誌 100 巻 3 号，2007年。
5. 協力ゲーム理論と経済学，三田学会雑誌 102 巻 3 号，2009年。
6. フォン・ノイマンのミニマックス定理をめぐる覚書，三田学会雑誌 104 巻 2 号，2011年。

経済志林（法政大学経済学部紀要）

1. A Direct Proof of Aumann and Maschlers' Theorem on the Nucleolus of a Bankruptcy Game, *Keizai Shirin*, vol.57, no.2, 1989.
2. Mutually Consistent Expectations and the Nash Bargaining Problem, *Keizai Shirin*, vol.58,no.12, 1990.
3. Bargaining for an Information Good with Externalities, *Keizai Shirin*, vol.58, no.34, 1991.
4. 経済学と数学，そしてゲーム理論，経済志林 63 巻 1 号，1995年。

富大経済論集

1. 公共財の共同消費における安定性，富大経済論集 21 巻 1 号，1975年 7月。
2. A Game Theoretic Interpretation for the Free-Rider Problem under the Lindahl Mechanism, *Fudai Keizai Ronshu*, vol.22, no.2, November 1976.
3. Note on the Lindahl Equilibria and the Core of an Economy with a Public Good, *Fudai Keizai Ronshu*, vol.22, no.3, March 1977.
4. A Note on Lindahl Equilibria and the Core of a Game with a Crowded Public Good, *Fudai Keizai Ronshu*, vol.23, no.1, July 1977.
5. 課税と所得再分配，富大経済論集 23 巻 2 号，1977年 11月。
6. Note on Harsanyi's Social Welfare Function, (joint with K. Nakamura), *Fudai Keizai Ronshu*, vol.23, no.3, March 1978.
7. Garbage Game と排除費用，富大経済論集 24 巻 1 号，1978年 7月。
8. Discrepancy between Harsanyi and Diamond on Social Preferences, (joint with K. Nakamura), *Fudai Keizai Ronshu*, vol.24, no.2, November 1978.
9. Note on Pareto Optima, *Fudai Keizai Ronshu*, vol.25, no.2, November 1979.
10. 集合的選択による所得再分配，富大経済論集 25 巻 3 号，1980年 3月。
11. Nucleolus のある一般化について，富大経済論集 26 巻 3 号，1981年 3月。
12. 拒否権の評価——仁による例証，富大経済論集 27 巻 3 号，1982年 3月。
13. The Core and Compensation in Collective Choice, *Fudai Keizai Ronshu*, vol.27, no.2, February 1982.
14. Shapley 値の別表現について，富大経済論集 30 巻 3 号，1985年 3月。
15. ある社会選択問題——誰を選ぶべきか？　富大経済論集 31 巻 3 号，1986年 3月。
16. 破産問題と n 人ゲームの仁，富大経済論集 32 巻 2 号，1986年 11月。
17. The Proportional Solution in a Bankruptcy Bargaining Problem, *Fudai Keizai Ronshu*, vol.34, no.2, February 1989.

その他

1. 多国間同盟の内部的安定性,（鈴木光男教授との共著），国際問題 129 号，1970年 12月。
2. ジレンマ・ゲームにおける行動——情報およびコミュニケーションの役割,（鈴木光男教授との共著），数理科学，no.113, 1972年 12月。
3. 4 人ゲームの差別解,（鈴木光男教授との共著），オペレーションズ・リサーチ， vol.17, no.11, 1972年。
4. 共同ゴミ処理場の建設における建設地住民への適正な分配，日本オペレーションズリサーチ学会講演予稿集，1973年。
5. 非協力ゲームの支配戦略と Nash 均衡——公共財の供給と費用負担，オペレーションズ・リサーチ，vol.26，no.10，1981年 10月。
6. 書評『均衡分析の数理』 丸山徹著，季刊理論経済 37 巻 3 号，1986年 9月。
7. 交渉ゲーム理論，数理情報科学事典，朝倉書店，1995年。
8. 限定合理性とマシンプレイヤー，第 11 回 RAMP シンポジウム論文集，1999年。
9. ナッシュ均衡とミニマックス定理，ていくおふ, no.87, SUMMER，1999年。
10. 繰り返されるジレンマゲーム，ていくおふ，no.88, AUTUMN, 1999年。
11. 交渉ゲーム，ていくおふ，no.89, WINTER, 2000年。
12. ゲームにおける決定不能性とランダムネス，第 43 回シンポジウム予稿集「ゲームの理論とオペレーションズリサーチ」，2000年 3月。
13. 福祉と環境のゲーム分析，ていくおふ，no.90, SPRING, 2000年。
14. ゲームと計算理論，数理科学, vol.496, October, 2004年。
15. ゲーム理論の誕生に関わった科学者たち，シュプリンガー・サイエンス，vol.9, no.2, 2004年。
16. 提携戦略形ゲームとその応用，*ECO-FORUM*, vol.24, February 2006年。
17. 書評『ナッシュは何を見たか』，H.W. クーン，S. ナサー編（落合卓四郎，松島斉　訳），シュプリンガー・フェアラーク東京，数学通信, vol.11, 2006年。
18. 社会科学への道を切り開く——フォン・ノイマンとモルゲンシュテルン，ゲーム理論プラス　経済セミナー増刊，日本評論社，2007年。
19. 解説『ゲームの理論と経済行動 III』，J. フォン・ノイマン，O. モルゲンシュテルン共著（銀林浩，橋本和美，宮本敏雄　監訳，銀林浩，宮本敏雄　訳），ちくま学芸文庫，2008年。

著　書

1. 『計画と決定』講座情報社会科学 7 社会的技術の展開 III, 鈴木光男編著，学習研究社，1971年（分担執筆）。

2. 『ゲーム理論の展開』，鈴木光男編著，東京図書，1973年（分担執筆）。
3. 『数理計画法の応用〈理論編〉』講座数理計画法 10，伊理正夫，今野浩編，産業図書，1982年（分担執筆）。
4. 『はじめてのゲーム理論』有斐閣，1997年。
5. 『ミクロ経済学』（分担執筆）東洋経済新報社，1997年。
6. 『ゲーム理論で解く』（共編著）有斐閣，2000年。
7. 『社会的ゲームの理論入門』勁草書房，2005年。
8. 『協力ゲーム理論』（共著）勁草書房，2008年。
9. 『協力ゲームの基礎と応用』勁草書房，2012年。